

講座・イベントの
ごあんない

イベント	日時
■プラザdeカフェ「スマホでビデオ通話」	7月21日(火) 10:30~12:00
■NPOマネジメント講座「NPOのための日々の会計整理」	7月23日(木) ~ 8月8日(土)
■NPOマネジメント講座「地域のファシリテーション」	8月8日(土) ~ 9月12日(土)

NEW!

支援施設からのお知らせ

■プラザ de カフェ「スマホでビデオ通話」

新型コロナウイルス感染症の流行を機に、オンラインで会話をする人が増えています。利用に尻込みしている方、もっと使いこなしたい方、実際にお持ちのスマホを使って、グルーptークをつなげてみませんか？

日時：2020年7月21日(火) 10:30~12:00

内容：年度末の処理を簡単にするための
日々行う会計・事務・報告の方法

料金：無料

対象：ご興味のある方誰でも

定員：10名

問合せ・申込：市民活動プラザむつあい



■NPO マネジメント講座「NPOのための日々の会計整理」

推進センターオンライン講座第3弾は、毎年好評の会計基礎講座です。年度末に慌てないために日々行うべきことは何か、初めて会計を担当する方だけでなく、日々の実務にお悩みの方にもおススメです。

視聴期間：2020年7月23日(木)~8月8日(土)

内容：年度末の処理を簡単にするための
日々行う会計・事務・報告の方法

料金：500円

対象：NPO、ボランティア団体等で活動している方

講師：手塚 明美氏

(認定NPO法人藤沢市民活動推進機構 理事長)

問合せ・申込：藤沢市民活動推進センター



■NPO マネジメント講座「地域のファシリテーション」

「意見を出す人が少ない」「いつも予定時間をオーバーしてしまう」など、ミーティング等のお悩みにお応えします！全3回の講座では、ファシリテーションの基礎からオンライン会議の進め方、ミーティング等の場の設計など、団体のメンバーのアイデアを引き出す技術が学べます。
※第1回、第2回はオンライン開催となります。

日時：①2020年8月8日(土) 16:00~18:00 (Zoom)

②8月22日(土) 16:00~18:00 (Zoom)

③9月12日(土) 15:00~18:00 (F-プレイス)

内容：①ファシリテーション概論・参加者の現状と課題

②ファシリテーションの応用範囲、活用事例

③参加者のアイデアを最大限に引き出す会議とは

会場：F-プレイス 307・308 会議室 (第3回)

料金：1500円

対象：NPO、ボランティア団体等で活動している方

講師：清水 謙氏

(ヒトコトデザイン株式会社 代表取締役)

問合せ・申込：藤沢市民活動推進センター



※センター・プラザの連絡先はページ下部をご参照ください



布マスク

※登録団体である藤沢市民活動推進機構から、布マスクを寄贈いただきました。先着順でお譲りします。[布マスク2枚入り50セット]センターでの受け取りです。まずは、お問い合わせください。

発行：藤沢市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00~22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031 小島ビル2階

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00~19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL: http://plaza6i.f-npon.jp/



編集：認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構 (藤沢市民活動支援施設 指定管理団体)

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です！



藤沢市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：バランスを意識して、健やかな活動を！



緊急事態宣言の解除から1ヶ月が経ち、世の中でもほとんどの業種が営業を再開しました。

しかし依然として新型コロナウイルスへの不安は大きく、以前のような活動に戻れていない団体も多くあると思います。なかなか再開の時期や基準を設けることができず、漠然とした不安の中で日々を過ごしているのではないのでしょうか。

そこで今回は、活動を再開した1つの事例として、「プレイパークもりとかぜ (以下、「もりとかぜ」)」の活動に

参加させていただきました。

「もりとかぜ」は、藤沢市少年の森でプレイパークの活動を行っている団体です。プレイパークとは、滑り台やブランコなどの遊具のように何か決まった遊び方があるわけではなく、子どもたちの想像、意思によって自由にやりたいことを考えて取り組める遊び場のことを言います。地域の人やボランティアの協力のもとで、子どもたちが主体的に自由に遊ぶ場として、学校の校庭や公園、空き地など日本各地で行われています。(つづく)



特集：バランスを意識して、健やかな健康を！

お話を伺った吉岡さんによると、「もりとかぜ」では事前に「今日はこれをやる」と決めるのではなく、その日に来た子どもたちがやりたいことを一緒に楽しんでいるとのこと。「何かを焼きたい」と言ったら木を拾ってきて火をつけ、「工作がしたい」と言ったら釘やトンカチを出して子どもたち自ら自由に作る。

少年の森の開けた場を使い、子どもたちは思い思いに過ごしています。

もりとかぜとしては、子どもとその親だけがその場にいるのではなく、様々な世代の方が集まり、各々が少年の森の自然を楽しみながら、その場に集まる人々全体として子どもたちを見守るような場にしていきたいとのことでした。

実際、自分の子どもかどうかは関係なく、大人と一緒に遊んでいましたし、子どもたちが何かに熱中している時は、大人たち同士で楽しく談笑している様子がありました。また、何か強制されるといったことはない自由な場所だからこそ、たとえば学校を休みがちになってしまっている子どもの居場所でもありたいとのことでした。

しかし4月、緊急事態宣言を受けて少年の森が休園となったことで、6月の初めに再開するまでプレイパークの活動も一時休まざるを得なくなりました。

ご自身も子育て中のお母さんである吉岡さんが活動再開までに感じたのは、怖いのはコロナウイルス感染症に限ることだけではないということだったそうです。自粛期間中、外に出られないために大人も子どもも体力が低下し、それは集中力の低下や精神的に不安定な状態にもつながっていったことが、すぐに活動の再開を決めた要因になったとのことでした。



世に言う「健全に過ごす」ということは、何か1つの大きな不安要素に対してのみ過剰に反応することではなく、それに対して出来る事はしながらも、いかに総合的にバランスの取れた環境を作るかということを大事にしていきたいとおっしゃっていました。

推進センターとプラザは再開から1ヶ月が経ちました。web上でのミーティング等を活用できているところもあるかと思いますが、まだまだ活動を再開できていないところが多くあると感じています。団体の数だけ様々な事情がありますが、一番の資本である身体の調子を保つには外に出ることが大事ということ、実際にもりとかぜの場に行き、子どもたちを含む参加者と過ごす中で改めて感じました。屋外に出ることはいつでもできるのですが、プレイパークのような自然にあふれ、誰もが参加できる場所に行ってみるといのはいかがでしょうか。

(取材と記事作成：林)

「藤沢市少年の森」
管理運営：(公財) 藤沢市みらい創造財団



団体紹介

プレイパーク「もりとかぜ」

代表：野島 志都
活動日時：
毎週金曜日、10時半～16時(出入自由)
活動場所：
藤沢市少年の森 芝生広場(管理棟前)

実施・開催等のお知らせ
はこちらをご覧ください。

団体facebookページ→



藤沢市少年の森にてプレイパークを開設しています。団体のはじまりは、少年の森でもともと週に1回行われていたプレイパークを、もう少し回数を多くしたいという有志が集まり、少年の森の全面的な協力を受けて独自に開設することになり、団体として立ち上がりました。これまで公益的市民活動助成事業(右ページで紹介するミライカナル助成事業の前身)を活用し、さまざまな遊びに対応するための道具を揃えてきました。乳幼児から高齢者までが集い、世代間交流が生まれるプレイ

パークを目指して活動を行っています。
誰でも大歓迎の場ですので、ぜひ直接遊びに行ってみてください。



補助金助成金申請に大切なこと

NPO TIPS

事業を広げていきたいときに、資金が必要になる場合があると思います。その際の資金調達を選択肢に補助金や助成金の活用があります。今号では、申請の際に考えておくべきポイントをお伝えします。

まず、当然のことながら、「なぜ補助金・助成金が必要なのか」という理由に説得力がないといけませんし、様々なセクター(行政・助成財団・企業・NPO)が助成事業を行っていますが、どこでもいいと手あたり次第に申請するのは間違いです。

どの助成事業でも、助成する想い・理由は様々ですので、その助成団体の趣旨に合う、要望に応えられる申請内容でないといふファーストステップは越えられません。

また、皆さんの「事業に対する熱意」を書類上で表現する際、自分たちがしたいことを

そのまま記載しても審査員を説得することは難しいかもしれません。

右記ポイントを念頭に置いて申請書を書いてみましょう。

また、記入が終わった後にすぐに提出するのではなく、(団体関係者や、団体活動に関わっていない方など)複数の目で確認をすることが、伝え方や表現方法が変わり、わかりやすくなると思います。

推進センターでは、補助金・助成金・表彰制度等のNPO支援情報を藤沢周辺中心に紹介しています。こちらも参考にしてみてくださいは幸いです。(ほ)

申請書作成のポイント

1. 誰でもわかる言葉で書く
2. どんな社会問題に取り組むのか明らかにする
3. 実現可能なプランを作る
4. ある程度は独自色を出す
5. 効果を想定する(定量的)
6. 予算は分かりやすく
7. 必然性を表現する

藤沢市市民活動推進センター
NPO支援情報データベース



募集再開!【市民活動提案制度】
ミライカナル活動サポート事業募集
締切：7月17日(金)午後5時まで



参考情報



ふじさわの緊急支援

2020年3月から新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市民活動支援施設「推進センター」「プラザむつあい」はともに閉館しました。スタッフはできることは何でもしようと、ちょうど年度末を迎える時期でもありましたので、会議資料などの印刷を代行することにしました。そこから5月末まで閉館することになるのですが、都合150件、枚数にして10万枚以上のオーダーにこたえることができました。

3月から4月にかけて、緊急アンケートを実施し、どんな困難があるのかの集計を行いました。場所のこと、人のこと、資金のこと、様々な困難の事例をお伝えいただきました。それでも、工夫をして支援活動を行っている団体は数多くみることができます。現在、子どもや高齢者への影響が広がっています。市民活動やNPOは、社会的に弱い立場の方々を支援対象とした活動が多いため、現在のコロナ渦の中、緊急的な支援活動を行っている市民活動団体の活動は必要です。しかしな

がら、アンケート結果から見る事ができるように資金繰りに苦慮し、活動の継続が困難となっている現状があります。

そこで、藤沢市の市民活動支援施設の指定管理者である「認定NPO法人藤沢市民活動推進機構」では、「緊急支援基金」を立ち上げ、「緊急支援助成」を実施することとなりました。「緊急支援基金」は、広く皆様の寄付を受付る窓口として7月中旬より開始します。制度としては、認定NPO法人への寄附金の全てを損金算入できる国税庁の仕組み「指定寄付制度」を活用します。8月には、助成する団体の募集も開始します。

持続化給付金や休業協力金など、NPO法人や個人事業主として活動している皆さんへの公的支援は、徐々に「申請した」や「受領した」との報告が入ってきているところですが、もう一步の支援が届きにくい状況も見えています。7月から8月にかけてのお知らせを是非ご覧頂き、寄付のご効力をお願いいたします。(て)

